

懸案事項の解消を急。ピッチで進め 市政のさらなる飛躍を目指す

昨年はコミュニティバスの運行や コミュニティセンター整備が前進

新春にあたり、謹んで新年のごあいさつを申し上げます。
昨年は、3月11日に発生した未曾有の東日本大震災により日本中に激震が走りました。被災された皆さまには、心からお見舞い申し上げます。一日も早い復興を願っております。また、復興支援に際して市民の皆さまから、たくさんのお義援金や品々をいただき、紙面をお借りしてお礼申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと、観光大使の琴奨菊関が9月場所後に大関に昇進したことが最も嬉しいニュースでした。大関の活躍は市の知名度を上げ、私たちが元気づけてくれました。大関昇進水上げパレードには、市内外から2万人の人が祝福に訪れ、市も創設したばかりの柳川市民栄誉賞を贈り大関の昇進を祝いました。今後は、さらに稽古を重ね、初優勝と横綱を目指していただきます。

反面、市職員のデータ入力への誤りによる水路使用料の過少請求で市民の皆さまにご迷惑をおかけいたしました。心からお詫び申し上げます。今後二度と同じ誤りを起こさないよう対策を尽くします。

さて私は、これまで市民の皆さまの声に

耳を傾け、誰もが「安全で安心して暮らせるまち」「住みたいまち、住み続けたいまち」の実現を目指し市政を預かっております。

昨年は、合併以来の懸案であったコミュニティバスの運行を大和、三橋地区で開始したほか、コミュニティセンターの整備も4地区で先行しており、平成26年度までに全校区整備する予定です。

このほか、ファミリーサポートセンターの設置、「おいでメッセ柳川」のオープンによる柳川地域ブランドの推進、小型合併浄化槽設置の上乗せ補助の延長など、懸案事項の解決を果たすことができました。

光通信網整備で利便性を向上 九州市長会開催で市の魅力を発信

今年の新規事業として大和地区などの光通信網整備事業、柳川市民武道場改築や既存スポーツ施設改修事業などを予定しています。さらには西鉄と協議を重ねた結果、平成26年度までに駅東口開設と併せて西口と東口を結ぶ自由通路整備が大筋で合意できました。駅前広場の改修なども含めて柳川にふさわしい玄関口づくりを進めます。

1月からは人口減少対策として、空き家・空き地情報を紹介する「空き家バンク」を設置し定住・移住人口の増加を目指します。今年5月には、九州市長会が本市で開催

されることになりました。九州各県の市長をおもてなしの心をもって迎え、水郷柳川の魅力を九州全域に発信していきたいと考えています。

また、幹線道路では、今春に国道443号バイパス、今秋に有明沿岸道路（大和南）（徳益）が開通し、交通の利便性がますます向上することが期待されます。

その一方で、市民の皆さまのご要望に添えるには多くの財源が必要です。第2次行財政改革や市民目線による外部評価委員会の意見を取り込む行政評価システムに取り組み、経費の削減と効率化を図り、健全財政の運営に努めてまいります。

今後、各種事業の実施には市民の皆さまのご理解とご協力が必要です。市民の皆さまと協働して、市民サービスの向上に努めてまいりますので、更なるご支援ご協力をお願いいたします。

結びに、この1年が市民の皆さまにとって幸多い年となりますことをお祈り申し上げます。

柳川の魅力の一層の向上と 人材の育成による郷土づくりを

議会改革特別委員会を設置し新時代の議会の在り方を検討

年頭にあたり、柳川市議会を代表致しまして、謹んで新年のご挨拶申し上げます。
まず、昨年3月11日に発生した東日本大震災により、東北・関東地方の多くの方々が被災されたことに対して、改めて心からお見舞い申し上げます。住宅や道路などハード面は徐々に整備されてきているようですが、現在も多くの方が震災前とは程遠い生活を余儀なくされているものと思えます。本市では、被災地の一刻も早い復興を願ひ、市民の皆さまから多くの義援金を寄せられました。

昨年一番の嬉しいニュースとしては、秋場所12勝の好成績を収め、見事に大関昇進を決めた琴奨菊関の活躍です。特に、大関を決めた秋場所14日目の日馬富士戦は、私も市民の皆さんと一緒に水の郷で応援していました。日馬富士関が土俵を割った瞬間、思わず椅子から飛び上がって喜んだことを昨日のこのように思い出しています。九州場所でも初日から9連勝で、新大関での優勝の期待も膨らみましたが、残念ながら手が届きませんでした。今年は、初優勝に向けて大いに活躍してくれることを期待しています。

柳川市も早いもので合併後7回目の新春を迎えることとなりました。市議会では、旧1市2町の伝統と歴史を踏まえつつ、更なる発展と均衡のとれた一体感のあるまちづくりに取り組んでまいりました。しかしながら、その取り組みをさらに推進するため、また、しっかりとした議会運営を行うため、昨年、議会改革特別委員会を設置いたしました。この委員会で、新時代の議会の在り方を十分議論し、市民の皆さんと一体となって、本市の特色を生かしたまちづくりを推進しなければならぬと強く決意するところです。

市の活性化に向け産業の振興と 人材の育成が急務

長引く不況から脱却できない日本の経済情勢下でも、自治体は住民のニーズに応え、様々な行政課題の解決に努めていかなければなりません。特に、本市においては少子高齢化や人口減少に対応するための地域福祉の推進、また農業・水産業、観光の振興など、本市の活性化に向けた取り組みが常に求められています。特に農業においては、昨年の夏場の長雨により、小麦などの農作物に大きな被害をもたらしました。また今年が最盛期の海苔養殖では、昨年11月の乾海苔初入札において出品枚数、総額とも一昨



柳川市議会議長 古賀澄雄



柳川市長 金子健次



蒲池焼「干支香合」